

声楽における技の伝達と習得

Gesture and communication in the teaching of singing skills

山本真秀[†], 野中哲士[‡]

Maho Yamamoto, Tetsushi Nonaka

[†]神戸大学, [‡]神戸大学大学院人間発達環境学研究科

Kobe University, Graduate School of Human Development

ma.310.dolce@gmail.com

Abstract

Generally, when vocal music teachers teach how to sing well in vocal music or in chorus, they frequently use gestures and metaphor. In this study, I focus gestures and the words used in lessons of vocal music. In order to clarify the system how teacher and student communicate together in lessons, I analyzed the gestures and the words which teacher used and student's interpretations of teacher's advices. As a result, I found that teacher make another additional advices following to original advices. Moreover, I found advices often include another advices in their background.

Keywords—communication, gesture, words, vocal music,

1. 問題と目的

声楽や合唱の指導の現場では、ジェスチャーや比喩が頻繁に使用される。声楽や合唱の経験者の間ではこのようなコミュニケーションを可能にする共通の認識があるのだろうか。あるいは、そのような共通の認識はどのようにして生まれるのだろうか。声楽や合唱の指導の現場では、実際どのようなジェスチャーや言葉がどのような状況で用いられ、「歌う」という技能はどのようにして他者に伝達されるのだろうか。

本研究では、声楽のレッスンにおいて上達するた

めの指導をする際、どのようなジェスチャーや言葉が使用されているかを実証的に検討することを通じて、声楽のレッスンという場で先生と生徒の間でどのようにして意図が共有されているのかを明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

対象は声楽の先生と生徒（筆者）である。生徒はこの先生に5年間ほど習っている。1回1時間ほどのレッスンをビデオ録画した。記録期間は2015年5月から10月の間の3回である。録画を基に先生が教えるときに使用したジェスチャーや言葉、また先生の指示が表す意味についての生徒の解釈を時系列に沿って記録した。これらのデータを分類し、分析を行った。

3. 結果

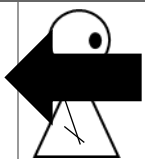
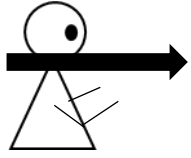
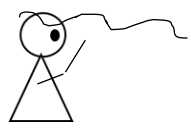
3.1 群としての指示

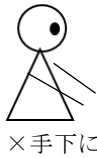
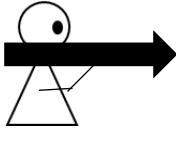
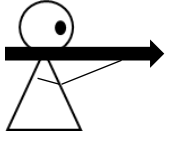
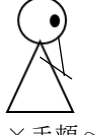
一つの指示の後に続けて直前の指示を補足するような指示がみられた。

3.1.1 悪い例、良い例セットの場合…表1

- ・5c（悪い例）5d（良い例）
- ・22a（良い例）22b（悪い例）
- ・25a（悪い例）25b（良い例）
- ・28a（悪い例）28b（良い例）
- ・29a（良い例）29b（悪い例）。

表1

記録番号	ジェスチャー	言葉	表す意味・解釈
5c	 ×両手を顔の後ろへ。手のひらを後ろへ。	「 u-o- (×)」	響きが後ろに いっている (×)
5d	 ○両手を顔の前へ。手のひらはピンと張って内側寄りの前へ。	「 u-o- (○)」	響きを集めて 前へ飛ばして いる。(○)
22a	「 Convien partir!」 Donizetti  ○両手を上から下に (矢印)	「Addio の 所 っ か り」	背筋を使って 高音に上がる。 矢印＝背筋の イメージ  実際は上だが 反対方向の下 のイメージで 重心を下す。
22b	 ×手をひらひらさせる	「 Addio (ふわふわ) にして しまわない よう、おし りまくった 方がかっこ いい」	軽い、可愛い感 じは× (=手の 動き) 芯がほし い

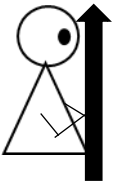
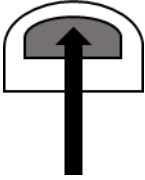
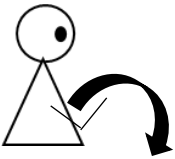
25a	「 Dhe,vieni,no n tardar 」 Mozart  ×手下に	「incornar 最初の na からが大き すぎるんじ やない。na- でもう開か ないって感 じ」	
25b	 ○	「incorona r っ てして あげると出 やすくなる んじゃない かな」	a で高音上がる ときのイメー ジ 頭声 na より a は口 大きくなる
28a	 ×両手顔横から 後ろに	「細かいこ とってい い ? la terra の te が te (悪い 例) になっ たね。」	広がった te の e 母音はきたな い
28b	 ○前に	「la terra」	前に音を飛ば す
29a	 ○人差し指を立 てて前へ	「 i furti miei」	人差し指を立 てる＝口縦 まっすぐに
29b	 ×手頬へあてた まま	「 i furti miei」	ほほにあてる ＝音が停滞し ている

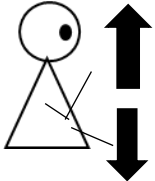
3.1.2 抽象的な指示を具体的な指示で補足する場合 (言い換えを含む) …表 2

・5b が 5a を補足：5a は体と離れたところでのイメージで説明，5b は鼻 (体) のポイントで具体的に説明している。

- ・ 6b が 6a を補足：6a は抽象的なジェスチャーで説明，6b は言葉で体の使う部分を説明している．
- ・ 9b が 9a を補足：9a は抽象的なジェスチャーで説明，9b は具体的な比喻で説明している．
- ・ 10 が 8,9 を補足：8,9 はイメージで説明，10 は筋肉の使い方で説明している．（8、9、10 と徐々に具体的になる．）

表 2

記録番号	ジェスチャー	言葉	表す意味・解釈
5a	 左手で筒を作り、右手の人差し指で筒をつくる	「u・o・の o・の この筒の中 イメージした 方が いい か も。」	響きがここを とおる。頭声 でまっすぐ響 かせるため。 
5b		「この鼻の n ～～（鼻をおさ える）振動する ところ。この振 動するところ にむけて当て る よう に し て。」	ng ポイントに あてる
6a	 人差し指と親指 でつまむよう に。矢印の方へ （前へ）手を出 す。	「 u・o・o・u・o・o・ u」	矢印はみぞお ちの方向。 低音を前に飛 ばすため。
6b		「下引っ張る、 みぞおち出 す。」	重心を下にお ろす。丹田を 使う。 低音を出すた めには、みぞ おちがまだ必 要。 芯のある声を出 すため。

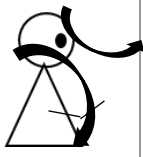
9a	 両手を真ん中か ら上下へ	「u・o・o・u」	o・の高音が大 事なので、何 度も繰り返し ている
9b	 両手グーで上下 へ	「ここをうよ ーんてストッ キングでも伸 ばすようなイ メージ」	ストッキング を伸ばす＝力 を込めて上下 へ伸ばす 上の力：背筋 で持ち上げる 下の力：重力 をおろす これを勢いよ くする。（高音 を出すため）
10		「うんそうそ う。 背筋を使って ね。背筋を伸ば すイメージ。」	

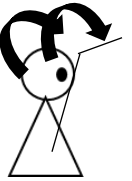
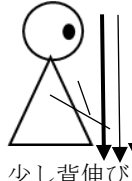
3. 1. 3 その他の場合…表 3

- 12 が 11 を補足：11 はやや具体的な比喻で説明，12 は大げさなジェスチャーで説明している．
- 19 が 18 を補足：18 は口を開けないという具体的な指示で説明，19 はやや抽象的な指示で説明している．

- 31 が 30 を補足：同じフレーズを違う側面から指示、補足している．

表 3

記録番号	ジェスチャー	言葉	表す意味・解釈
11		(u・oo·u· oo·u·) 「唇のまな い」	唇は前へ。 響きを前 へ飛ばす ため。
12	 両手を唇の 所から前に	「ここをこ う、おえー っ と だ し て」	唇を前へ

18	 右手を広げ 矢印の方へ (悪い例)	「うん、で、 低い音の時、ma-o-a- あんまり口 開ける意味 ない」	低音では 口をあま り開けな い方が響 きが集ま る
19		(ma-o-a- 音階下がっ ていく) 「音集め る」	音集める ＝響き集 める
30		「incorona あける a あ ける a ar あけてから 声を発しな いといけな い」	のどを音 が出ると きの状態 (ひらく、 あける)に してから 声を発す る
31	 少し背伸び をしながら 両手下に	「incoronar ここがあまり もたもたし ないほうが いい」	nar のスピ ードが いる 下矢印は 上矢印と バランス を保つ

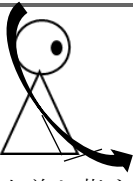
3.2 背景の省略された指示

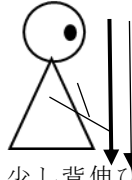
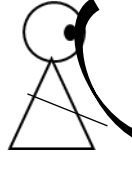
言葉やジェスチャーで示す指示の中に、異なる指示や具体的な指示が含まれているものの、それを省略した形で指示している場面がみられた。

3.2.1 具体的な指示の背景に含まれる別の指示を省略している場合…表 4

・21, 22a, 31, 32：下矢印で説明しているが、同時に逆方向である上矢印が必要であることを含んでいる。

表 4

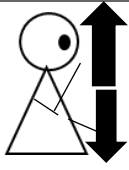
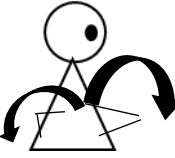
記録 番号	ジェスチャー	言葉	表す意味・解 釈
21	 人差し指を矢 印の方向へ	(高音) 「ma-o-a- こ っちしっかり 締めてね」	こっち＝臀 筋締める  と同

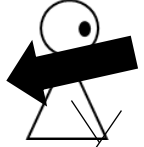
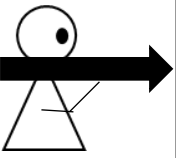
			時に  上下のバラ ンスが大事 (下が少な かった)重 心下に。
22a	「Convien partir!」 Donizetti  ○両手を上か ら下に (矢印)	「Addio の所 しっかり」	背筋を使っ て高音に上 がる。 矢印＝背筋 のイメージ  実際は上だ が反対方向 の下のイメ ージで重心 を下す。
31	 少し背伸びを しながら両手 下に	「incoronar ここがあまり もたもたしな いほうがいい」	nar のスピ ードが いる 下矢印は上 矢印とバラ ンスを保つ
32		「vieni しっ かりあけてか ら」	 下矢印は上 矢印とバラ ンスを保つ 上下に矢印 ＝あける、 高音に上 がるとき

3.2.2 一見抽象的な指示だが、その中に具体的な指示が含まれており、具体的な指示を省略している場合…表 5

6b：「下引っ張る」の中に、「丹田を使う」ことが含まれる。
9b：「ストッキングをのばす」とは「力を込めて上下へのぼす」ことであり、すなわち「勢いよく背筋で持ち上げ、重心を下す」ことである。
16：人差し指を上にあげる指示には、「ピッチをあげるために頭声を使う、軟口蓋と後頭部を持ち上げる」という意味が含まれている。
26：右手は「みぞおちを使う」、左手は「背筋を使う」ことを表す。
28b：手を前に出すことは、「前に音を飛ばす」ことであり、そのために「口を縦に開く」ことを表す。（28a と文脈的に対比していることから、背景を読み取れる。）

表 5

記録番号	ジェスチャー	言葉	表す意味・解釈
9b	 両手グーで上下へ	「ここをうよーんてストッキングでも伸ばすようなイメージ」	ストッキングを伸ばす＝力を込めて上下へ伸ばす 上の力：背筋で持ち上げる 下の力：重力をおろすこれを勢いよくする。 （高音を出すため）
16	 人差し指を上へ	「うん。ちょっと音程が粗いかな。U-i」	ピッチが低かった。 人差し指上＝ピッチを上げる、頭声がいる
26		（レチタティーヴォ） 「che all'amoroso foco ここを	右手＝みぞおち 左手＝背筋を使うことを表す。

		絶対に抜かないように」	低音はみぞおちに力を入れると、芯のある声になる。同時に後ろ背筋に力を入れてバランスをとる
28a	 ×両手顔横から後ろに	「細かいこと言っていない？ la terra の te が te（悪い例）になったね。」	広がった te の e 母音はきたない
28b	 ○前に	「la terra」	前に音を飛ばす

4. 考察

3.1.1 より、悪い例を表す指示と良い例を表す指示は、それら片方の指示がもう片方に続いてみられた。このことから、片方の指示がもう片方を補足していると考えることができる。

3.1.2 より、抽象的な指示の直後に、その指示を具体的に言い換えた指示がみられた。後者の指示の存在により、生徒はその場面での指示をより明確に理解した。つまり、具体的な指示は抽象的な指示を補足しており、そのことは先生と生徒の間の意思疎通を促したといえる。

3.1.3 より、上記以外の場合の補足の指示がみられた。やや抽象的な指示が具体的な指示を補足していたことから、補足することにおいて必ずしも具体的な指示が抽象的な指示よりも分かりやすいわけではないと考えることができる。補足のパターンの種類については複数存在すると想定できるので、現段階ではまだ分析を行っていないデータの分析により検証する予定である。

これらのことから、一つの指示の後にそれを補足するような指示があり、この補足が先生と生徒の間の意思疎通を促していることが考えられる。

3.2.1 より、ここでは下矢印という具体的な指示をする一方で、逆方向である上矢印が必要であることを含んでいる。この上矢印が必要であるこ

とを生徒が理解できるのは、このような場面で過去に下矢印と同時に上矢印が必要であるという指示を受けたことがあるからである。すなわち、この過去の指示を先生は生徒が理解していることを前提として、上矢印という指示を省略して指示していると考えることができる。

3.2.2より、一見抽象的な指示だがその中に具体的な指示が含まれており、具体的な指示を省略している場面がみられた。例えば、6bでは「下引っ張る」という抽象的な指示には、「丹田を使う」ことが含まれている。3.2.1の場合と同様に、過去に同じような場面で「下引っ張る」とは「丹田を使う」ことであるというような指示があり、それを先生は生徒が理解していることを前提として省略して指示していると考えることができる。

本研究では、冒頭に述べたように、声楽のレッスンという場で先生と生徒の間でどのようにして意図が共有されているのかを明らかにすることを目的としている。結果と上記の考察のとおり、ある指示を補足するような指示が存在することが分かった。また、指示の背景に別の指示が存在し、先生と生徒の過去のレッスンという体験によって二人が共有している背景を先生が省略して指示する場面があることが分かった。このことから、先生と生徒の間で意図が共有されており、意図の共有プロセスにおいては何かのシステムが存在することが予測できる。

ここで、3.1.2の6bの指示に注目する。6bは6aを補足している。一方で3.2.2より、6bには背景に具体的な指示が含まれている。このことより、6a、6b、6bの背景にある指示が入れ子になっていると考えることができる。この指示の入れ子について理解を深めるため、他の指示どうしの関連について検証を続ける必要がある。現在分析済みのデータは記録した3本のうち1本分であるため、残りの2本同様に分析し、考察に基づいて研究を進める予定である。

5. 参考文献

- [1]J. J. ギブソン, (1985), 生態学的視覚論, サイエンス社
- [2]ニコライ.A. ベルンシュタイン, (2003), デスクレリティ 巧みさとその発達, 金子書房
- [3]Patricia Zuknow-Goldring, A Social Ecological Realist Approach to the Emergence of the Lexicon: Educating Attention to Amodal Invariants in

Gesture and Speech

[4]マイケル・トマセロ, (2013), コミュニケーションの起源を探る, 勁草書房

[5] 喜多壮太郎, (2002), ジェスチャー 考えるからだ, 佐々木正人・國吉康夫 編, 金子書房